

授業の様子

令和7年度 馬込小学校 研推だより 1年生号

令和7年 12月 19日(金)

思考力・判断力・表現力を育てる学習指導の工夫

～対話を通して互いの考えを認め合い、

問題解決を図る児童の育成をめざして～



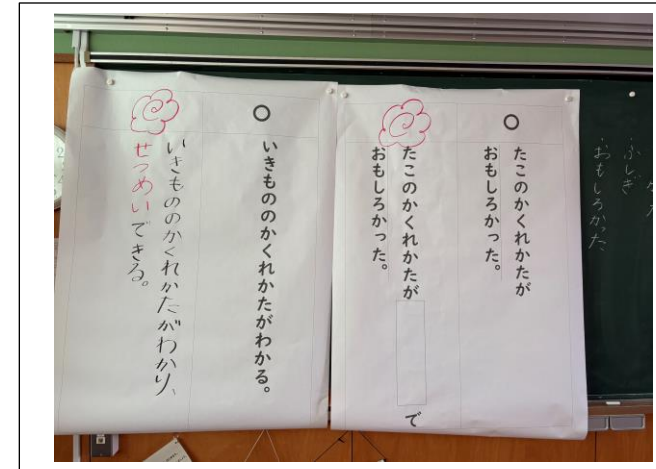
1-1

よかった点

いかに多くの宝を取るか、「個人→グループ」と考え、児童同士が伝え合い、考えを深めることができた。目的が分かりやすく、意欲を高められた。

改善点

考えた作戦を理解していても、技能がなく、うまくいかない児童がいた。実態に合わせた作戦を考えられるように、適切な助言ができると良かった。



1-2

よかった点

ループリックを使用し、「単元を通して何ができるようになりたいか」を考えることで、問題解決に対する意欲の向上が見られた。他の授業でも活かされている。

改善点

「説明」という言葉が難しい児童が数名いた。また自分の中の正解に近づけようと質問・発問をしてしまった。



1-3

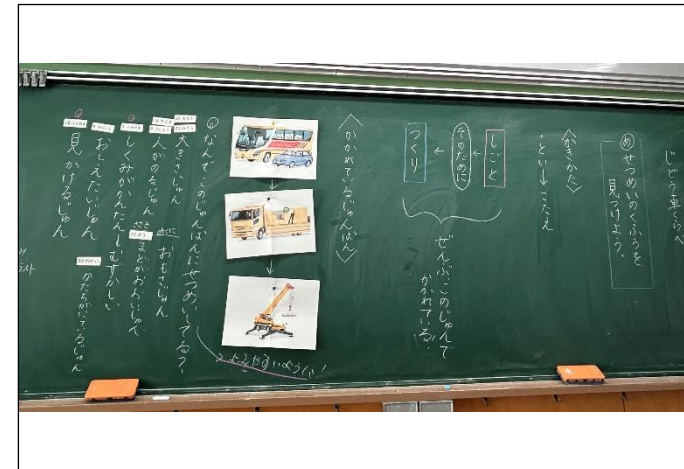
よかった点

実物を用意して実際に水のかさの比べ方を考え、児童自身も試すことを通して、より意欲的に取り組み、理解を深めることができた。

改善点

比べ方を一つ一つ確かめて行った分、活動の時間が限られてしまった。児童が試す時間をもっと設けられると良かった。

実物の用意や試す際の環境整備など、授業前の準備に時間と手間が多くなってしまった。



1-4

よかった点

「しごと」と「つくり」を教科書で色分けすることで、「しごと→つくり」の順に沿って説明されていることに気づきやすくなった。

改善点

身近な車から順に登場する説明の仕方の工夫への気づきが見られたが、なぜその順になるのか、読み手の立場を想像しながら全体で検討する時間をもう少しとれると良かった。

学年のまとめ

学年全体を通して、課題の目的を明確にしたり、視点を意識させたりすることで、児童同士が伝え合いながら考えを深める姿が多く見られた。個人で考えたことをグループで共有する活動や、実物を用いて確かめる活動を取り入れたことで、学習への意欲が高まり、理解を深めることにつながった。一方で、考えたことを「説明する」ことの難しさや、児童一人一人の技能差への対応、活動時間の確保といった課題も見られた。今後は、児童の実態に応じた声掛けや助言を工夫するとともに、こどもたちがすすんで試行錯誤できる時間や環境を十分に保障していけるようにしたい。